

第1会場●2F 第4研修室

■司 会／河本 潤 岡山県生涯学習センター 副参事(生涯学習推進担当)
野田 恵子 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課 社会教育主事

分科会の進め方

13:45～13:50

1 中高生と社会人の対話による学びを創出する「三四郎の学校」の挑戦! 13:50～14:20

日賀 優一(福岡県みやこ町) 三四郎の学校 事務局

「三四郎の学校」では、2013（平成25）年から、みやこ町の公民館等を活用し、中高生と大人が対話を通じて出逢い、自分、社会、未来について語り合い、考える「地域の学び場」を開催している。

多くの社会人ボランティアの参加があり、異年齢集団による対話の場が実現している。また、対話の重要性を認識、実践できるワークショップを開催している。

2 令和2年7月豪雨における災害支援の連携手法 ～NPOと社会教育行政等との連携による被災地の子ども支援～ 14:30～15:00

井下友梨花(熊本県) 認定NPO法人力タリバ カタリバパーク責任者

清永 淳子(熊本県) 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課 社会教育主事

NPO法人と社会教育行政等との連携による、被災地の子どもたちに対する支援の発表。注目は、スピード感と連携の手法。2020（令和2）年7月4日、熊本県南部は未曾有の豪雨被害を受けたが、その現場にいち早く駆けつけたのはNPO法人力タリバだった。

一方、熊本県教育庁は、被災地の子どもたちに対する支援活動を行うため、既存のボランティアチームに加え、大学生等に対して新規募集をかけて多くのチームを派遣した。カタリバ、被災地教委、県社会教育課、ボランティアチーム等と連携を図った支援活動の一例である。

ティータイム

15:00～15:30

3 いい出会いは、いい人生をつくる～ ～「中高生×大学生×地域の大人」の交流プログラム～ 15:30～16:00

和泉 克軌(岡山県) NPO法人だっぴ 鳥取支部代表・(一社)鳥取県地域教育推進局スタッフ

地域のつながりの希薄化、若者の自己肯定感の低下、将来に対する不安の増加といった社会問題を解決するため、2010（平成22）年より活動を開始する。地域、学校、企業、行政と連携しながら、年間30件、延べ4,000人の若者が参加する「だっぴイベント」を開催。

岡山県内の中学校・高等学校を主な活動の場とし、「一人ひとりの若者が人ととのつながりの中で自分らしく生きられる社会」をつくるため、「自分は何者か?」という問いへのヒントとなる出会いの場を創造している。